



町内の手作り家具工房「木歎坊」の家具職人、山上さんと一緒に仕事をする様子。写真は2021年3月の製材の時の様子。山上さんのお客様からのオーダーで、神奈川県大和市の敷地内から台風で倒れたケヤキを運び出し、英夫さんが製材。山上さんの工房であと2年ほどかけて乾燥させてから、テーブルとイスになる予定



木を乗せた送材車がこのレールの上を歩き来して、中央にある帯状ののこぎりによって切断されていく



送材車を動かす操作盤。危険と隣合わせの機械を自分の手足のように操作するには長い年数がかかるそう



五十嵐製材所で働く大野さん。切断された木はサイズごとにまとめられる

サイクル方法があります。後々の事まで考えて仕事をするという事が大切なんです」
木を切り出すところから一貫して行う事で、木の特性に合わせた活用ができ、無駄なく製材できる。木を一番良い状態で活用してあげたいという英夫さんの思いから、現在の形になっています。

無垢の良さを伝えたい

五十嵐製材所では、一本の丸太から切り出して木材を作っています。そのような方法で作った木材の事を無垢材といいます。無垢材は調湿作用を持っていて、梅雨や夏のじめじめした時期は水分を吸収し、冬の乾燥する時期は水分を放出します。また接着剤などの化学物質が使われておらず、体に優しい木材という事でも知られています。

無垢材の見た目は、一つとして同じものがなく、一本一本が樹齢や育った環境によって木目や色合いが異なるそうです。人がそれぞれ違った個性を持っているように、木もそれぞれの特徴や細やかな違いがあるそう。

「樹齢200年や300年ぐらい経ったものは非常に素晴らしい艶と色をしています。無垢材を使った家は、木目や色合いなど、個性がそれぞれにあって飽きません」

無垢材を持つ良さや機能を、これからもより多くの人に伝えていきたいという英夫さん。

「建築用材や家具を作るには、絶対に製材を通さなければ製品としての価値を生み出すことはできません。その事に誇りを持って、無垢材の良さを伝え続けていきたいと思っています」

難しい仕事ほどおもしろい

木の性質は、南北に引っ張られて東西に圧迫されるなどの特徴がある事に加え、木の品種などそれぞれが持つ特徴を考慮して製材をする必要があるそうです。

「いつも、この木に合った最高のものって、どんなものだろうと考えています。木は切られて終わりではなく、そこからそれぞれに合ったものにする事でまた生きる。それが製材の面白みでもあります」
年を重ねるごとに、仕事に面白さを感じているという英夫さん。

「難しい仕事ほど、やっつけて面白さを感じます。少し値段の張るものを仕上げる場合、それなりの気合が必要になります。そんな時も、発想の転換で、「難しい」とか『大変』という事を、『面白い』に変えるようにしています」
もし若返る事ができたら、もう一度この仕事をしたいと話す英夫さん。

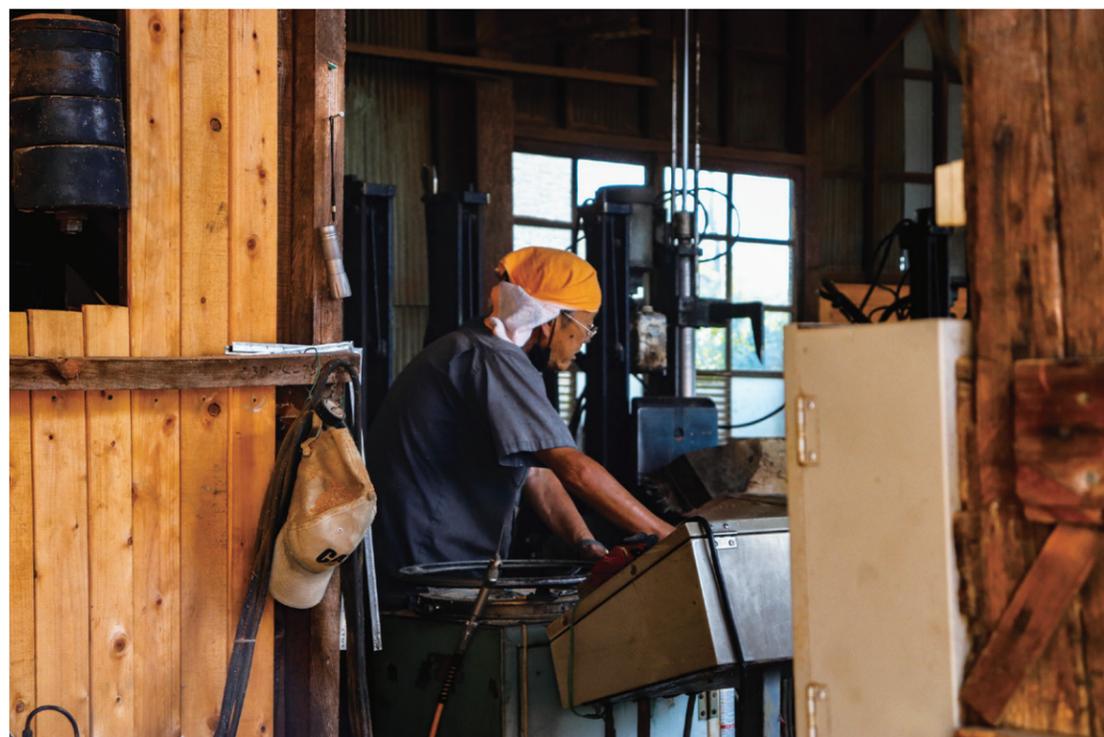
「自然のものを相手にするのは面白いですよ。どう生かすかは、自分次第だから」
大変な時に、発想を転換させる。決して簡単な事ではありませんが、日々の生活の中でも、大切な事のような気がします。

地域みなさんに感謝

これからも、一つ一つ良い物を作って、達成感を積み重ねていきたいと話す英夫さん。また、地域の方々なくしては、五十嵐製材所は続けられなかったといいます。

「住宅地の中にあるという事もあり、ご近所のみなさんの深いご理解、愛情によって成り立っていると思っています。本当に感謝しています」

半世紀以上、木をより良い木材に生まれ変わらせるために、木と向き合い続けてきた五十嵐製材所。これからも、ここで歴史を刻み続けるとともに、新しいものを作り出し続けていきます。



のこぎりが木を切断する時に動きや音に異常がないか、神経を集中させて送材車を操作する



五十嵐製材所 いがらしせいざいじょ

利根町押戸1288
TEL 0297-68-2315